

2020年12月14日
行政報告資料
町田市民病院事務部 経営企画室

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について(2020年度上半期)

町田市民病院では、質の高い医療サービスを提供し、安定した病院経営を維持していくために、「町田市民病院中期経営計画（2017年度～2021年度）」及び事業計画を策定し、これに基づき、経営改善を進めております。

このたび、2020年度上半期の進捗状況をまとめましたので、その結果を報告いたします。

添付資料

- ・ 町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について(2020年度上半期)

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2020年度上半期）

2020年12月14日
行政報告資料
町田市民病院事務部経営企画室

1. 患者・マーケットに関する取組 ～患者サービスの向上と医療連携の推進～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2020年度(上半期)の実績
<p>(1) 患者満足度の向上</p> <p>【2019年度】 入院患者満足度 90% 外来患者満足度 85%</p>	<p>入院患者満足度 90% 外来患者満足度 90%</p>	<p>未実施 未実施</p>	<p>・患者給食の充実 ・外来待ち時間の短縮</p>	<p>・患者サービス委員会にて、アンケート内容の確認や実施方法の見直しを行い、患者給食の種類ごと(常食、制限食、流動食)に満足度を集計できる形に変更しました。10月13日(火)から19日(月)にかけて患者満足度調査を実施する予定です。</p> <p>・出産で入院している患者の食事満足度が低いことから、産後食の見直しを計画し、給食業務委託事業者と共同で献立内容(食器含む)の改善を行い、2020年度内の開始を目標に調整を進めました。</p>
<p>(2) 情報提供の充実</p> <p>【2021年度】 病院ホームページアクセス件数 12万件/月</p> <p>【2019年度】 病院ホームページへのクリニカルパス掲載数 60件</p>	<p>病院ホームページアクセス件数 12万件/月</p> <p>市民公開講座の開催回数 6回</p>	<p>14.7万件/月</p> <p>0回</p>	<p>・ホームページのリニューアル</p> <p>・市民公開講座の開催</p>	<p>・産科ホームページを7月に公開しました。産科ホームページを合わせたアクセス件数は14.7万件/月となり、新型コロナウイルス感染症への関心が増えたことによるものと思われます。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、上半期の講座の開催は中止としました。今後については感染状況等を踏まえ、実施に向けた検討を行います。</p>
<p>(3) 医療連携の推進</p> <p>【2019年度】 紹介率 65% 逆紹介率 45%</p> <p>【2020年度】 地域医療支援病院 承認</p>	<p>紹介率 70% 逆紹介率 70%</p> <p>地域医療従事者向け研修 15回 医療機関訪問件数 30件</p>	<p>75.2% 72.7%</p> <p>5回 0件</p>	<p>・地域医療支援病院としての機能強化</p> <p>・地域医療従事者向け研修の実施</p> <p>・医師同行医療機関訪問の実施</p>	<p>・地域医療支援病院として、新型コロナウイルス感染症の診療と、地域医療機関等からの急性期患者の受け入れ両立を目指しました。この結果、紹介率は75.2%となり、2019年度実績(76.5%)とほぼ同水準となりました。</p> <p>・かかりつけ医への診療情報提供を継続して行い、逆紹介率は72.7%となり、2019年度実績(70.3%)と比べて2.4ポイント増加しました。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により中止した研修があったため、地域の医師や看護師等を対象とした研修は上半期時点で5回実施となりました。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、医療機関訪問は実施を見送りました。</p>
<p>(4) 高齢患者に安心な退院支援の充実</p> <p>【2019年度】 退院支援件数 1,400件/年 (「退院支援加算2」の算定件数)</p>	<p>入退院支援件数 2,500件/年 (「入退院支援加算1」の算定件数) ※入退院支援加算1と入退院支援加算2の主な違い ・病棟への入退院支援職員の配置の要否 ・面談、カンファレンスの実施期限の有無</p>	<p>1,133件/半年</p>	<p>・入退院支援の実施</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により手術を制限したため、入退院患者数が減少しました。これにより入退院支援加算算定件数は、目標を達する事ができませんでした。</p> <p>・退院患者に対する入退院支援加算算定割合は24%(2019年度23%)となり、2019年度と比較し算定率は上がりました。退院支援が必要な患者に対して多職種で連携を行い、支援が必要な患者に適切に対応しています。</p> <p>・地域の医療・介護従事者間の効率的な情報共有・連携を促進するため、下半期にリモートでのカンファレンスを導入できるように、運用ルール検討などを行いました。</p>
<p>(5) 小児医療・周産期医療の確保</p> <p>【2018年度】 小児入院患者数 22人/日 母体搬送受入件数 75件/年</p>	<p>小児入院患者数 22人/日 母体搬送受入件数 100件/年</p>	<p>12人/日 33件/半年</p>	<p>・小児入院体制の維持 ・ハイリスク妊産婦の積極的な受入</p>	<p>・小児入院患者数は12人/日(新生児内科含む)となりました。外来管理の充実や予防接種の充実等により、入院が必要な児童が減少している状況に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により集団行動の制限や手指衛生の徹底がされたため例年に比べRSウイルスや胃腸炎などの感染症による入院が減少したものと考えられます。市内で唯一の小児入院医療施設として、一般診療の他、循環器外来やアレルギー外来などの専門診療を行っています。</p> <p>・母体搬送受入件数は33件(6件/月)となりました。南多摩保健医療圏で唯一の地域周産期母子医療センターとして、今後も積極的な受け入れを行ってまいります。</p> <p>・妊婦のニーズに応じ、お産の選択肢を増やすため無痛分娩を開始しました。産婦人科と麻酔科のチーム体制により安心して出産できる環境を整えています。</p>

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2020年度上半期）

2. 収支改善に関する取組 ～収益の向上と費用の削減を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2020年度(上半期)の実績
<p>(1) 病床の安定的稼働</p> <p>【2021年度】 病床利用率 85% 新入院患者数 1,000人/月</p>	<p>病床利用率 84.0% 新入院患者数 968人/月 病床再編の実施 有償利用率 50%</p>	<p>68.2% (一般71.6%、特定47.6%) 776人/月 未実施 40.8%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 稼働率の低い病床の活用方法の検討 特別室の利用率向上 	<ul style="list-style-type: none"> 病床再編を実施していく予定でしたが、東京都の要請を受け新型コロナウイルス感染症の専用病棟を確保したことで病床利用率は低下し、68.2%となりました。また、急を要さない予定手術を延期したことで、新入院患者数が減少したことも影響しています。 感染症対策として個室を確保したため、患者希望による個室利用が減少しました。これにより有償利用率は40.8%となり、2019年度実績(49.9%)を9.1ポイント減少しました。
<p>(2) 診療単価の上昇</p> <p>【2020年度】 入院単価 58,000円 外来単価 14,500円</p>	<p>入院単価 64,000円 外来単価 12,500円 ハイケアユニット入院医療管理料</p>	<p>65,503円 13,318円 施設基準取得調整中</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新規施設基準の取得 慢性期患者の逆紹介の推進 算定率向上に向けた取り組みの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな施設基準の取得は実施していないものの、2019年度の途中から取得した施設基準の収益が、年度の当初から反映されていることから、入院単価は上昇しています。又、施設基準を維持した結果、2020年度の診療報酬改定によりDPC係数は上昇することとなり、入院単価の上昇に繋がっています。 外来単価は2019年度実績(12,672円)を646円上回りました。新型コロナウイルス感染症の影響により、再診・処方のみなどの診療密度の低い患者が減少し、検査を受けるなど診療密度の高い患者の割合が増えたためと考えられます。 ハイケアユニット入院医療管理料については、対象となる病棟や病床数、運用方法等について引き続きを検討しました。
<p>(3) 材料費の削減</p> <p>【2017年度】 ジェネリック医薬品使用量比率(DPC) 80% (入院のみ)</p> <p>【2020年度】 材料費削減額 500万円/年 (単価差積算ベース)</p>	<p>薬品費の値引き率 11.0% 診療材料費削減額 600万円/年 (単価差積算ベース)</p>	<p>16.53% 165万円/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 薬品費の削減 診療材料費の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 薬品の競争見積及び値引き交渉を行った結果、薬品費の値引率は16.53%となり、目標値を5.53ポイント上回りました。 新型コロナウイルス感染症の影響により、診療材料の在庫が国内外で品薄状態であることや価格が高騰していることから、従来に比べ各種取組みを進めることが難しい状況にあります。そのため共同購入、商品切替、価格交渉等を行いました。診療材料費の削減は約165万円となりました。
	<p>【その他】 光熱水費 前年度比5%減</p>	<p>11.2%減</p>	<ul style="list-style-type: none"> 光熱水費の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 気候状況に応じて発電と買電の効率的な運用を行った結果、光熱水費は11.2%減(電気料金9.4%減、ガス料金15.1%減、上下水道料金8.6%減)となり、目標値を6.2ポイント上回りました。

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2020年度上半期）

3. 業務向上に関する取組 ～病院機能の向上を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2020年度(上半期)の実績
<p>(1) 救急診療体制の充実</p> <p>【2020年度】 救急車による受入患者数 460人</p>	<p>救急車による受入患者数 500人/月 救急からの入院患者数 315人/月 救急応需率 75%</p>	<p>413人/月 274人/月 66.9%</p>	<p>・救急隊との連携強化</p>	<p>・救急車による受入患者数は413人/月となり、2019年度実績(467人/月)と比べ、54人/月(11.6%)減少しました。特に小児科の患者が減少しており、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えが原因と考えられます。</p> <p>・救急からの入院患者数は274人/月となり、2019年度実績(291人/月)と比べ、17人/月(5.8%)減少しました。救急からの入院率は26.6%となり2019年度実績(23.9%)と比べ2.7ポイント増加しました。</p> <p>・直近1年間の東京消防庁の救急応需率は66.9%となり、前年同期(69.1%)と比べ、2.2ポイント減少しました。</p>
<p>(2) 災害拠点病院としての機能の充実</p> <p>【2017年度】 連携訓練回数 1回/年</p>	<p>連携訓練回数 1回/年 南多摩保健医療圏災害拠点病院間における通信訓練1回/年 DMAT隊1編成の維持 災害支援ナース登録数 10人</p>	<p>未実施 1回/年 1名欠員 10人</p>	<p>・災害時を想定した医療機関等との連携推進</p> <p>・DMAT隊員の養成 ・災害支援ナースの養成</p>	<p>・町田市と連携して行う訓練を10月に実施する予定です。当日はトリアージ訓練、職員参集・安否確認システムによるメール訓練、町田市防災課との市防災無線訓練が予定されています。</p> <p>・南多摩保健医療圏災害拠点病院間における通信訓練は、災害医療センターの防災FAXや災害時掲示板、広域災害救急医療システムEMISを利用した通信訓練を実施しました。</p> <p>・DMAT隊員の医師1名が欠員となったため、DMAT養成講習に申し込みました。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により1名が未更新ですが、新たに1名が災害支援ナース研修を修了しました。</p>
<p>(3) 急性期病院としての質の向上</p> <p>【2019年度】 手術件数 4,360件/年 (麻酔科管理件数 2,900件/年) リハビリ実施単位数 5,000単位/月</p>	<p>手術件数 4,500件/年 (麻酔科管理件数 2,960件/年) リハビリ実施単位数 6,000単位/月 クリニカルパスの見直し 予定入院患者に対する持参薬事前確認の運用開始 院外処方率 95% 指定抗菌薬届出率 100% 医師のインシデント報告件数 70件/年 手術部位感染率 全国平均以下5術式以上</p>	<p>1,864件/年 (1,182件/年) 5,925単位/月 見直し実施 一部開始 88.8% 80.0% 32件/半年 2術式</p>	<p>・手術室運営の効率化</p> <p>・急性期リハビリの充実 ・クリニカルパスの定期的な見直し ・入院支援の充実 ・薬剤業務のあり方の見直し</p> <p>・医療安全対策の推進</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、急を要さない手術については延期することとなったため、手術件数は減少しています。感染症の動向を踏まえつつ、術前PCR検査体制を維持しながら、手術件数の回復を目指します。</p> <p>・リハビリ実施単位数は、5,925単位/月となり、2019年度実績(5,984単位/月)を59単位/月(1.0%)下回りました。</p> <p>・クリニカルパスの見直しは、新規・変更に対してクリニカルパス委員全員で審議するようマニュアルを整備しました。これにより各パスの変更等を事前に察知、よりよい形への提言が行えるようになりました。10月時点で3件の新規・変更が審議される予定となっています。</p> <p>・持参薬事前確認の運用は、外科の入院予定患者を対象に開始いたしました。今後は他の診療科についても実施出来るよう調整を進めていきます。</p> <p>・AST(抗菌薬適正使用支援チーム)ラウンドにて指定抗菌薬の適正使用と共に届出の有無を確認し、届出がない場合はラウンド時に提出の指示をしました。また、診療科ごとにフィードバックし100%提出を求めました。</p> <p>・医師のインシデント全体としては78件の報告がありましたが、そのうち医師からの報告件数は32件です。医師から直接報告してもらうよう働きかけをしています。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の対応のため、手術部位感染のサーベイランスは2術式(大腸手術、胆のう手術)しかできていない状況です。現在、効率的なサーベイランスの実施に向けてシステム整備の準備をしています。</p>
<p>(4) 病院機能評価の更新</p> <p>【2017年度】 病院機能評価の更新</p>	<p>定期的な業務改善の実施</p>	<p>実施中</p>	<p>・業務改善の継続的な実施</p>	<p>・前回認定時に受けた指摘事項について、機構への改善報告を実施し、機構からのフィードバックを待っている状態です。また、町田市民病院・診療マニュアルの改訂に着手し、各部門で業務の見直しを実施しているところです。</p>
<p>(5) 外来機能の効率化</p> <p>【2021年度】 外来患者数 1,000人以下/日</p> <p>【2019年度】 地域連携予約枠利用者数 400人/月 逆紹介件数 970人/月</p>	<p>外来患者数 1,070人/日</p> <p>逆紹介件数 1,300件/月</p> <p>医師事務作業補助者による返書作成件数 1,200件/月</p>	<p>894人/日</p> <p>1,007件/月</p> <p>923件/月</p>	<p>・医師の負担軽減</p>	<p>・外来患者数は894人/日となり、2019年度実績(1,085人/日)と比べて、17.6%減少しました。外来患者数減少の要因としては、当院における逆紹介推進の取り組みのほか、新型コロナウイルス感染症拡大により、患者の受療行動に変化があったと考えられます。</p> <p>・外来患者数減少の影響を受け、逆紹介件数は1,007件/月となり、2019年度実績(1,255件/月)と比べて、248件/月(19.8%)減少しました。</p> <p>・外来患者数減少の影響もあり、地域医療機関からの紹介予約は336件/月となり、2019年度実績(431件/月)と比べて、95件/月(22.0%)減少しました。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響による紹介患者数の減少に伴い、返書作成件数:923件/月と目標には達していません。</p>
<p>(6) 外来化学療法センターの運営効率化</p> <p>【2019年度】 化学療法実施件数 200人/月</p>	<p>化学療法実施件数 200人/月</p>	<p>195人/月</p>	<p>・ベッドの効率的な運用</p>	<p>・化学療法実施件数については195人/月となり、2019年度実績(181人/月)を上回りました。新型コロナウイルス感染症の影響により、4月～5月は件数が減少しましたが、その後は新規患者が増加し満床となる日が増えました。特に投薬効果が上がってきている大腸がんの化学療法が増加傾向にあります。</p>

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2020年度上半期）

4. 進化・成長に関する取組 ～人材の安定確保と育成を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2020年度(上半期)の実績
<p>(1) 質の高い病院職員の安定確保</p> <p>【2021年度】 (常勤職員数) 医師 93人 医療技術 97人 看護師等 402人 事務 42人 (うち病院専任) 14人 計 634人</p>	<p>病院専任事務職員数 15人 臨床研修指導医 20人</p>	<p>15人 24人</p>	<p>・病院事務職員の専門性向上 ・研修医師の指導体制の充実</p>	<p>・病院専任事務職員数は、2020年4月に医事事務を1名採用し、合計で15名となりました。</p> <p>・臨床研修指導医は、2019年度末に4名受講し22名となり、更に2020年4月入職の医師2名が指導医を取得していたため24名となりました。</p> <p><2020年9月1日時点> 医師 89人 医療技術 108人 看護師等 391人 事務 43人 (うち病院専任) 15人 計 631人 ※育休及び退職者は含まず</p>
<p>(2) 質の高い医療従事者の育成</p> <p>【2019年度】 医療安全・感染対策講習会延参加人数 3,600人/年</p>	<p>医療安全講習会受講率 100% 感染対策講習会受講率 100% マネジメント研修の実施 特定行為研修の実施</p>	<p>医療安全講習会受講率 43% 感染対策講習会受講率 100% 未実施 上半期分研修スケジュールを実施</p>	<p>・医療安全・感染対策などの研修の必修化 ・マネジメント能力の育成 ・特定行為研修修了者の育成</p>	<p>・医療安全講習会を密を避けて開催したところ、当日の受講者は103人となりました。その後、講習会当日に受講できなかった職員を対象にビデオ上映を行い247人が受講したため受講率は43%となりました。今後は電子カルテでの視聴やDVD貸出を行い、全職員の受講を目指します。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、感染講演会は電子カルテやDVDでの動画視聴としました。期間内に受講できていない職員がいる部署の所属長と個人へ受講するよう通知した結果、受講率100%を達成しました。</p> <p>・医師や看護師、コメディカルの管理職を対象としたハラスメント研修を11月25日に実施予定です。</p> <p>・2020年2月26日に特定行為研修指定研修機関となり、4月から3名の受講者に対し特定行為区分『栄養および水分管理に係る薬剤投与』の研修を実施しています。現在は共通科目を修了し、10月から区分別科目を受講、3月に修了予定です。</p>
<p>(3) 職員満足度の向上</p> <p>【2021年度】 職員満足度 65%</p>	<p>職員満足度 64% 職員満足度調査結果に基づいた業務改善</p>	<p>未実施 実施</p>	<p>・職員満足度調査の実施 ・職員満足度調査結果に基づいた業務改善</p>	<p>・10月の職員満足度調査の実施に向けて事業者の選定、契約を行いました。</p> <p>・職員のコスト意識を醸成するため、NHA共同購入の説明会の準備を事業者と行いました。</p>